

必要な講習項目を検討しよう

- スノーケリングの行事を安全に実施するために、プログラムに含めるべき最低限の講習項目は何か？……といっても、行事の目的や実施環境、時間的な条件等によって、その必須項目は異なってきます。
- まずは実施する行事に合わせて、最適な講習項目を選択することが必要です。

「安全講習項目」選定の基準

1 プログラムの目的を確認する……「自然観察」or「技術習得」or・・・？

スノーケリングを安全に実施することを考えると、危険が次から次に頭をよぎり、あれも入れたいこれも伝えておきたい、と思うものです。

しかし、たとえば「スノーケリングを使った自然観察の楽しさを伝えること」を目的とする行事において、安全を重視するあまりにスケジュールの大半を技術習得のための講習にさいては、プログラムの目的が果たせません。まずプログラムの目的を確認し、その目的に沿って参加者に伝えておかなければいけない技術と情報を選ぶことが大切です。

逆に、スノーケリング技術を習得するための行事であるなら、「自然観察のウエイトを低くし、講習項目をできる限り多くする」というプログラムも考えられます。

2 実施場所、参加者の対象年齢、行事の規模

足のつく穏やかな内湾、岩礁海岸、足のつかない外洋、流れのある溪流……。これらフィールドの特質によって講習内容は大きく異なってきます。

また、参加者の対象年齢や、参加人数によっても、プログラム内容や安全講習の内容は異なるでしょう。小学生だけの行事の場合、あまり難しい技術や理論を伝えても理解しきれず、貴重な講習時間がむだになることもあります。簡単で安全確保ができる最低限の技術指導にしぼるという選択も必要な判断です。極端な場合、マスクのみを使用し、スノーケルやフィンを使用しないという形も考えられます。

「スノーケリング」or「スキndaイビング」？

「スノーケリング」という用語は、その解釈が指導者のなかでも曖昧です。一般的にはエアタンクを用いず、マスク、スノーケル、フィンを用いて水中観察を行うものを「スノーケリング」と呼んでいます。

しかし安全管理の面から見ると、参加者個々が浮力を確保し、水面に浮いて活動するものと、水中に潜ることを前程に行うものとは、分けて考えるほうが合理的です。両者では、習得すべき知識や技術の項目、安全管理体制が大きく異なってきます。

そこでこの冊子では以下のように、潜ることを前提にするか否かによって「スノーケリング」と「スキndaイビング」の用語を分けて使うことを提案します。

行事を計画する場合は、その目的を考え、水中に潜る必要性（必然性）がある「スキndaイビング」なのか、水面の活動「スノーケリング」で目的が達成できるものなのか、それを見極め、講習項目を決定するとよいでしょう。浮力を確保して活動を水面に限定するスノーケリングの場合、スキndaイビングに比べて「安全のための講習項目」を大幅に少なくすることが可能です。

■ スノーケリング

ウエットスーツ、ライフジャケットなどで、参加者個々に浮力を確保し、水面に浮いて活動を行う。

■ スキndaイビング

素潜り（息こらえ潜水）で、水中に潜ることを前提とする。

スノーケリング スキndaイビング

活動範囲

水面

水面および水中

浮力

確保

休息時、緊急時などに
浮力を確保できるようにする

器材

マスク

マスク

スノーケル

スノーケル

フィン

フィン

ウエットスーツ

ウエットスーツ&ウエイトベルト

(またはライフジャケット)

(または「Buoyancy Compensator (BC)

=浮力調整具) など